

井上内閣府特命担当大臣（科学技術政策）と梶田 日本学術会議会長との
意見交換に関する大臣のご発言（ぶら下がり会見でのご発言）

令和2年12月24日
日本学術会議事務局

以下について、梶田会長との間で合意した旨、大臣から発言がありました。

- 設置形態については、自民党の提言の中でも、ナショナルアカデミーとしての役割を果たすためにも「独立した新たな組織とすべき」という考え方であると思うので、現行の設置形態にこだわることなく、どのような制度設計をすれば、より良く役割を果たせるのか、フラットに検討を進めていただきたい。
- 「科学的助言機能の強化」や「会員選考プロセスの透明性の向上」など、日本学術会議自らが検討し、実施できる課題については、4月の総会までの間にも、具体的な改革を進めていただきたい。
- 今後具体的な検討を進める中で、中間報告に挙げられている5つの項目以外の論点、例えば、第三者機関の設置や外部レビュー制度など、あるいは5つの項目の中でも明示的に書かれていないもの、例えば、三部制の中での各部の会員数の比率の在り方のようなものなどについても、幅広く検討していただきたい。

その上で、政府と日本学術会議がともに未来志向で取り組んでいく観点から、引き続き梶田会長と意見交換しながら、日本学術会議の中での検討を更に進めていただくこととし、4月の報告を期待する。